

短期大学生の学習法に関する一考察

—有意味学習と機械的暗記の視点から—

A STUDY OF THE LEARNING METHOD OF JUNIOR COLLEGE STUDENTS

—FROM A VIEW POINT OF MEANINGFUL LEARNING AND ROTÉ LEARNING—

佐藤 美輪¹⁾

Miwa SATOU

キーワード：精緻化 学習法 有意味学習 機械的暗記学習 遅延テスト

Key words : elaboration, learning method, meaningful learning, rote learning, delayed test

要 旨

本研究は、本学観光ビジネス学科の学生を対象に、授業内で単元終了後に実施する直後テストと、期間をしばらく空けて実施した同一の遅延テストとの点数の推移をもとに、学生が日々どのような学習法をとっているかを調査・検討することを目的とする。また、質問紙やインタビュー調査も実施し、有意味学習と機械的暗記学習の観点から、点数の推移と学習法の関係について考察した。

直後テストと遅延テストの点数差は、授業外における既存知識や振り返りの機会が学習内容の残存状態と関連を示した。また、東北地方と北海道地方を対象とした問題を使用し、同様の直後テストと遅延テストを実施したが、地域によって大きな点数推移の差異が明らかになり、学習材料をつなぎ止めることができる関連知識を学生が事前に持ち合わせるかどうかによっても大きく差異が生じる結果となった。

Abstract

The purpose of this study is to investigate and examine the daily learning methods adopted by the students in the Department of Tourism Business of this college, focusing on the changes in the scores between a test taken immediately after completing a unit and the same test taken after a while. I also conducted questionnaire and interview surveys, and examined the relationship between a score transition and a learning method from the viewpoint of meaningful learning and rote learning.

The score differences between the immediate and delayed tests showed that knowledge outside

1) 仙台青葉学院短期大学 観光ビジネス学科
受理日：2017年2月1日

class and opportunities to review the subject are related to the retention of learned contents. In addition, by using the questions on the Tohoku and Hokkaido regions, I conducted similar immediate and delay tests, and large differences in the score transition could be observed in these two regions, and there was also a large difference depending on whether the students have prior knowledge on those regions that could help them preserve the learned contents.

はじめに

有意味学習 (meaningful learning) を機械的暗記学習 (rote learning) から明確に区別したのは Ausubel ら (1969) である¹⁾。有意味学習の機械的暗記学習との違いは、自分がいま持っている知識に関連させて、意味づけようとするか、関連づけなしに覚えようとするかの相違である。有意味学習になる条件として、彼らは次の3点をあげている。

- (1) 学習材料をつなぎ止めることのできる関連知識を学習者が持っていなければならない。
- (2) 学習者は有意味学習の構えを持っていないなければならない。
- (3) 学習材料が構造の無い無意味なバラバラのものであってはいけない。

一般に心理学的な意味で学習と聞けば、パブロフの条件付けの実験 (パヴロフ 1975) を思い出すだろう²⁾。犬にベルの音を聞かせ鳴り止むと同時にえさを与えるようにする。これを繰り返すと、犬は徐々にベルの音を聞いただけで唾液を出すようになる。それまでベルの音とえさの間には何の関連もなかった。そのあいだに連絡がつくようになったというのがパブロフの実験である。ベルの音とえさには必然性は無かったのだから、この実験は現在の認知心理学的な観点からすれば、犬の持っている認知構造と外部刺激に関して関連性は無い。すなわち「機械的暗記学習」ということになる。

一方、認知心理学分野の学習に関してよく知られたものに Bransford ら (1984) による精緻化 (elaboration) がある³⁾。西林 (1994) は、この

精緻化を証明する為の Bransford らの実験を紹介している⁴⁾。彼らの実験としては最初に、「眠い男が水差しを持っていた」「太った男が錠を買った」といったような、ある特徴を持った男とその行動との間に必然性のない文を数多く暗記させる。必然性がない為、丸暗記するしかないが、なかなか暗記できるものではない。しかし、「眠い男がコーヒーマーカーに水を入れるために水差しを持っていた」「太った男が冷蔵庫の扉にかける錠を買った」という文だと、男の特徴と行動との間に、それなりの必然性がつけ加えられ、記憶しやすくなるというものである。この必然性をつけ加える精緻化によって学習成績は極端に上昇する。精緻化とは呼ばれているが、認知構造と学習対象が関連を持つと学習が推進されるということだから、「有意味学習」なのだと考えてよい。

この有意味学習を保持の観点から見たものには次のような考えと実験がある。

西林 (2009) は、小学校で学ぶ各種面積公式に関して、通常行われている公式の羅列的な暗記は保持がよくないという⁵⁾。平行四辺形や三角形や台形の公式は、等積変形すれば、長方形の公式で十分にカバーすることができるかと述べる。長方形の公式の知識を持っていて、平行四辺形や三角形や台形にそれを柔軟にまた適切に当てはめるようにしておけば、無理に余計な公式を暗記する必要はないという。「正方形の単位面積」を隙間なく敷き詰められるのは、長方形に限られるため、いろいろな面積の公式が結局は、等積の長方形の面積を求めていることになるという。

知識や公式は単独では保持に関して弱いもので、他の知識と関連がついていないと、すぐに忘れ、

忘れると思いつき手がかりが他にないので、修復・再生が難しいとしている。学習方法において公式群を丸暗記した人たちは記憶の負担が大きいと、長持ちするような学力が身につかないということである。

このような考えをもとに西林（2009）は、大学生における三角関数の知識の保持について調べている⁶⁾。大学1年生の後期に三角関数の調査を行い、その成績と高等学校における学習時の学習法についての関連を見ている。多くの学生は入学試験が終わると三角関数に関する羅列的に記憶した各種公式をすっかり忘れてしまい成績がよくない。それに対して、ほんの一部の学生は入学後半年を経過しても、よくできるのである。これら保持のよい学生は、三角関数の各種公式群を丸暗記しないようにしたというのである。彼らは、三角関数の加法定理のみを記憶し、その他の公式はすべてそこから導くという学習法をとっていたのである。先の面積の公式群に関する学習法と同じである。

本研究では以上のような有意味学習と機械的暗記学習の観点および記憶の保持の観点から、短期大学生達の学習を考えたい。学習方法が、機械的暗記学習の学生であれば時間の経過とともに学習内容が記憶から簡単に落ちることが推測される。逆に有意味学習をとっている学生であれば時間の経過によっての落ち方は大きくは示されないであろう。むしろ上がる可能性もありうるだろう。そこで、この仮説に従い学習方法と点数の推移の関連の仕方について検討することとした。

1. 調査概要と結果

調査 I

【目的】

試験勉強が機械的暗記学習でも有意味学習であっても、試験問題がそれほど特異なものでなければ、テストでは高い点数を取ることが出来る。したがって、単純なテストだけでは、どのような学習がなされたかの区別はつけにくい。しかし、先に述べたように一定の時間を置いた後では、機械的暗記学習では学習内容は残りにくく、有意味学習では

比較的学習内容が残ると考えられる。実際の学習内容が一定の時間をおいた後、どのような残存状態を示すのかをみる。

【方法】

平成28年7月末に「観光地理」の東北地方単元の授業終了後、自己理解を確認するためのミニテスト（直後テスト）を実施した。問題数は25問、すべて選択式である。授業の中で取り扱った観光名所を主としており、難易度は高くない問題である。また、平成28年12月に授業時間外に、同一の問題である遅延テストを実施し、直後テストと遅延テストの点数の推移を比較することで、半年前の授業内容の知識がどの程度、残存しているかを検討した。

さらに、勉強時間や東北地方の既存知識の有無について、自由記述による質問紙調査を実施し、成績推移との関係を見た（資料3）。

なお、本研究は仙台青葉学院短期大学の研究倫理委員会の承認（承認番号2808）を得ている。

【材料】

実施したテストは末尾の資料に載せた。

【対象者】

仙台青葉学院短期大学観光ビジネス学科1年生30名（うち女性29名、男性1名）とした。また、出身地の内訳は北海道出身が1名の他、すべて東北地方出身（29名）であった。対象者には研究の内容を口頭で説明した後、書面による同意を得ている。

【結果】

7月に実施した直後テストと12月に実施した遅延テストの30名平均点の差は、8.8点となった。遅延テストの平均点は70点以上となり、授業終了後、一定の時間を置いてからの実施であったが、学習内容が大幅に落ちていないことが示された。

もう少し細かく見るために、この30名を直後テストと遅延テストの差に応じて3つのグループに分けてみる。差が大きい方から10番目の者は15点差であり、同じ点差の者が複数いることから「低下大グループ」は13名になった。また、低下差が少ない者（一部は前の得点を上回っている）から

10番目のものの得点差は5点である。この点数の者が複数いることから「低下小のグループ」は12名となった。この2グループを比較する(表1)。

対象者である30名のうち、相対的に低下が中間的でどちらのグループにも所属していない学生は、5名である。散布図で示すと、それぞれのグループは図の示す通りとなる(図1)。

「低下大グループ」としては、最初の直後テストでは83.1点の平均得点に対し、遅延テストでは、平均得点64.2点で、18.8点下がっている。それに対し、「低下小グループ」では、直後テスト80.4点に対し、遅延テストで82.9点と、2.5点の点数の上昇が見られた。この「低下大グループ」と「低下小グループ」では点数の推移において大きく差が示された。全員が同じように下がるのではないのである。差が大きい者と、差が小さい者または上がりさえする者とがいるのである(図2)。

表1 直後テスト・遅延テストの点数推移

	直後 テスト	遅延 テスト	差	
1	100	65	35	低下大グループ
2	95	65	30	
3	90	65	25	
4	100	80	20	
5	90	75	15	
6	55	40	15	
7	90	75	15	
8	90	75	15	
9	40	25	15	
10	80	65	15	
11	100	85	15	
12	65	50	15	
13	85	70	15	
14	80	70	10	低下小グループ
15	95	85	10	
16	85	75	10	
17	90	80	10	
18	95	85	10	
19	95	90	5	低下大・小以外
20	60	55	5	
21	70	65	5	
22	100	95	5	
23	85	85	0	
24	95	95	0	
25	85	85	0	
26	85	85	0	
27	90	95	-5	
28	85	95	-10	
29	55	65	-10	
30	60	85	-25	
平均	83.0	74.2	8.8	

「低下大グループ」と「低下小グループ」とで質問紙調査結果がどのように異なるかを以下に示す。

質問項目は次の5項目である。

- ①直後テスト前の勉強時間
- ②東北地方の既存知識の有無
- ③東北地方への親近感
- ④直後テスト後から東北地方を振り返る機会の有無
- ⑤遅延テストの手応えの有無

この質問紙調査は、すべて自由記述としている。「勉強時間」については、回答記述の中で最大が14日間、最小が直前の2時間であり、全体の中央値が7日となった。ゆえに7日以上勉強した者を一定以上勉強した者として位置づけた。また、自由記述の回答をもとに、「既存知識」「親近感」「振り返り」「手応え」の4項目は、それぞれの項

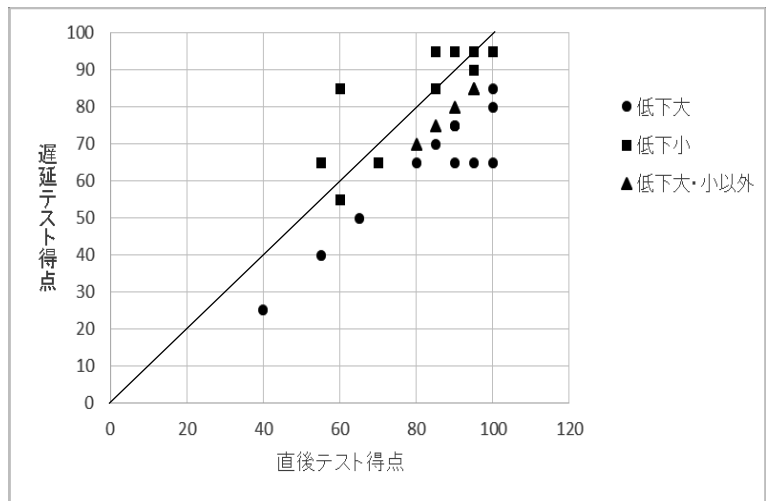


図1 直後テスト・遅延テストの散布図

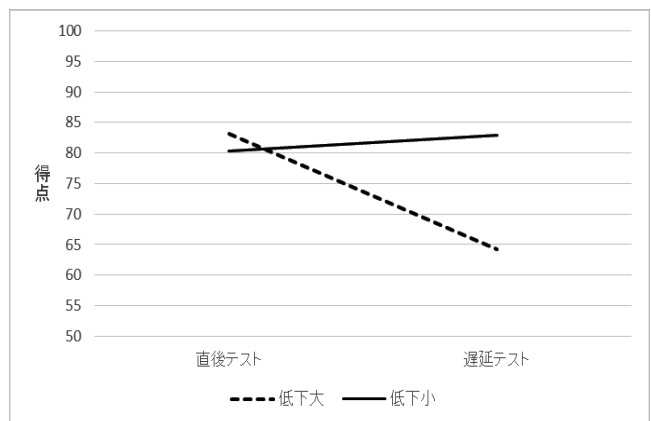


図2 直後テスト・遅延テストの点数推移

目の有無を判断し分析をした（資料3）。

その結果、すべての項目において、「低下小グループ」が上回る結果となった（表2、図3）。特に大きな差が見られた項目は、直後テスト後から東北地方を振り返る機会の有無である。「低下大グループ」では13名中1名と全体の7.7%に対して、「低下小グループ」では、12名中4名と全体の33.3%となった。また、遅延テストの手応えは26.3%、授業以前の既存知識の有無に関しては19.2%とある程度の差が明らかになった。逆に、東北地方への親近感については、東北出身学生がほとんどを占めていることから「低下大グループ」「低下小グループ」両者とも高い数値となり、差異はほとんどみられなかった。

【考察】

「低下大グループ」と「低下小グループ」の最初の成績はほとんど変わらない。両グループとも平均で80点以上の成績をとっている。直後のテスト結果だけを見れば、両グループに違いは無いの

である。しかし、一方は時間経過によって学習結果は低下し、一方は同じ程度に保たれるのである。

そもそも低下が大きいものを選んでグループをつくり、そもそも低下が小さいものを選んでグループを作ったのだから、ごく当然の結果であり、この結果から機械的学習と有意味学習の差を云々することはできないという批判は当然あり得る。

しかし、質問紙による調査項目において、注目すべき点は、授業以前の既存知識の有無と、直後テスト後から東北地方を振り返る機会の有無である。この2点は「低下大グループ」と「低下小グループ」で比較をすると大きな差を示しており、授業以外の時間における既存知識や振り返りの機会が学習内容の残存状態と関連性を示すことが大いに考えられる。ただ質問紙による本人による評定なので実際にどの程度行われたかの問題は残る。

そこで次の調査ではこれらの差が学習法の違いによるものかを検討することとする。

表2 東北地方 質問紙による調査結果

	7日以上 の勉強	授業以前の 既存知識有	親近感	直後テスト後 の振り返り	遅延テストの 手応え
低下大グループ(13名)	6 (46.2%)	4 (30.8%)	11 (84.6)	1 (7.7%)	2 (15.4%)
低下小グループ(12名)	8 (66.7%)	6 (50%)	11 (91.7%)	4 (33.3%)	5 (41.7%)

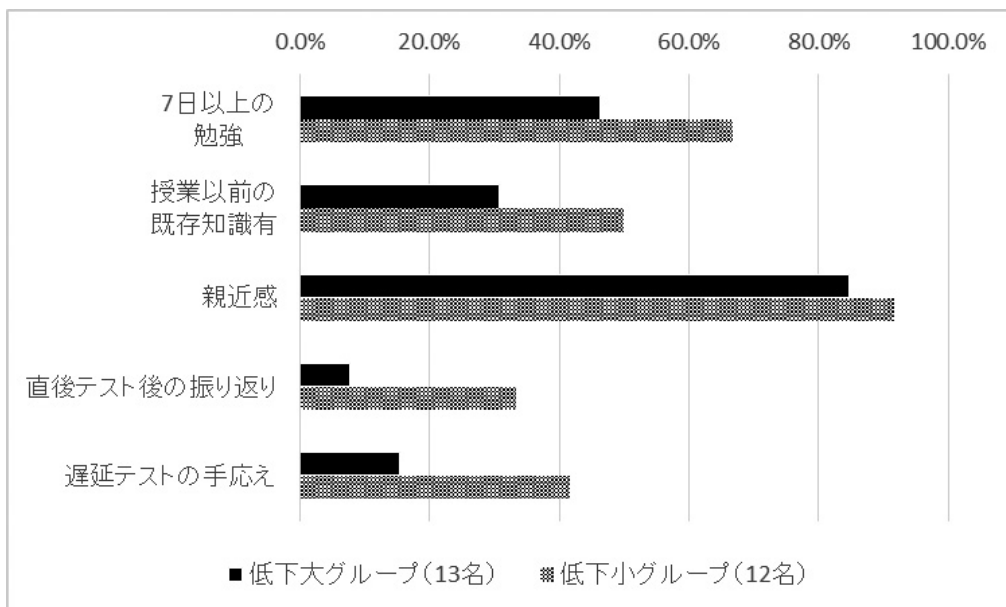


図3 東北地方 質問紙による調査結果

調査Ⅱ

【目的】

調査Ⅰの結果から、低下大グループと低下小グループでは、質問紙調査の結果から学習に対しての違いが示された。有意味学習においては、学習事項や新情報は既存知識に関係づけられて起き、この関係づけがないと機械的暗記学習となる。そこで、調査Ⅱでは、調査Ⅰで実施した東北地方を対象にしたテストと同様の方法で、北海道地方を対象としたテストを実施する。テストの対象地域によって、すなわち既存知識の多い少ないによって、学習法が異なるかを検討する。本学科における学生は東北地方出身者が9割以上を占めている。これらの学生は生まれ育った東北地方の既存知識を多く持ち授業に臨んでいることが考えられるが、北海道地方に関しては、既存知識はほとんど持ち合わせていないと考えられる。

【方法】

平成28年8月に「観光地理」の授業内において北海道地方単元終了後、自己理解を確認するためのミニテスト（直後テスト）を実施した。問題数は31問で30問が選択式であり残りの1問が記述式の問題である。授業の中で取り扱った観光名所を主としており、難易度はそこまで高い問題ではない。また、平成29年1月に授業時間外において、同様の問題である遅延テストの実施をし、直後テストと遅延テストの点数の推移を比較することで、半年前の授業内容の知識がどの程度、残存しているかの検討を行った。また、北海道地方の点数推移と事前に実施した東北地方の点数推移を比較し、学習対象地域による得点推移の違いについても比較する。

調査Ⅱ対象者8名には調査Ⅰと同様の質問紙調査を実施し、その項目に関するインタビュー調査も実施した。

【材料】

実施したテストは末尾の資料に載せた。

【対象者】

仙台青葉学院短期大学観光ビジネス学科1年生8名（すべて女性8名）とした。出身地の内訳は

北海道出身者1名、東北出身者7名である。東北出身者は北海道地方について、訪問した経験もなく既存知識はほとんど持ち合わせていない。対象者には研究の内容を口頭で説明した後、書面による同意を得ている。

【結果】

北海道地方と東北地方の直後テストの結果は、両地方とも90点以上と高い平均点となっており、1.25点ではあるが北海道地方の平均点が東北地方の平均点を上回る結果となった（表3、表4）。しかし、遅延テストの平均点を両方で比較すると、東北地方は平均得点10点強の下降にとどまっているが、北海道地方は40点弱の下降が見られ大きな差が出る結果となった（図4）。また、東北地方は直後テストの点数と比較し、遅延テストの点数が上昇する学生も2名いた（表3）。このうちの1名は、インタビューで「直後テストにおいて、間違った問題に関して悔しく思ったことから見直しを行い、次は間違えないように確認をすることで逆に遅延テストにおいては記憶に残っていた」と話している。

同じ東北地方において表3のDとGの学生は、直後テストではほぼ満点に近い点数を取得しているにも関わらず、遅延テストにおいては、30点以上点数が下降している。このDとGの2名の学生のインタビュー調査に共通していることは、「直後テストにおいては事前に告知があった為、試験範囲の勉強を、ある程度の時間をかけ実施したが、遅延テストにおいては、それまで振り返ることもなく覚えていない問題が多く、忘れていたという自覚が強かった」という発言であった。このDとGの学生は、北海道に関しても東北地方より大きな下降を示している。

北海道地方の直後テストと遅延テストとを比較すると、8名全員が点数の下降を示している（表4）。その中でも注目すべき点は、直後テストで100点満点を取得している学生が3名いるが、その中のBは遅延テストにおいては43点であり、57点の下降をしており、半分以上の知識が残存していない結果を示した。東北地方と北海道地方の直

表3 東北地方 テスト得点

東北地方			
	直後テスト	遅延テスト	差
A	90	95	-5
B	85	85	0
C	85	95	-10
D	95	65	30
E	90	75	15
F	95	90	5
G	100	65	35
H	100	85	15
平均	92.5	81.9	10.6

表4 北海道地方 テスト得点

北海道地方			
	直後テスト	遅延テスト	差
A	100	70	30
B	100	43	57
C	91	61	30
D	91	55	36
E	91	46	45
F	100	58	42
G	97	40	57
H	80	61	19
平均	93.8	54.3	39.5

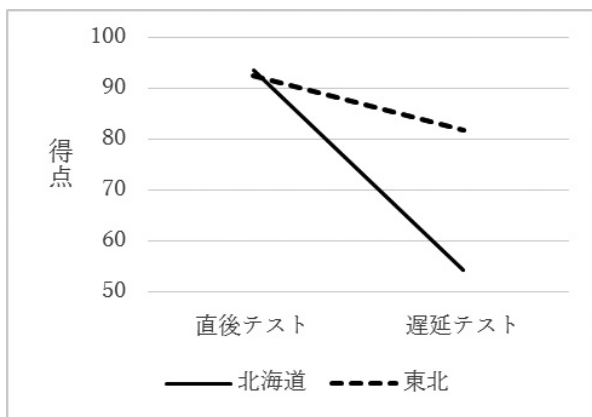


図4 学習対象地域による得点推移の違い

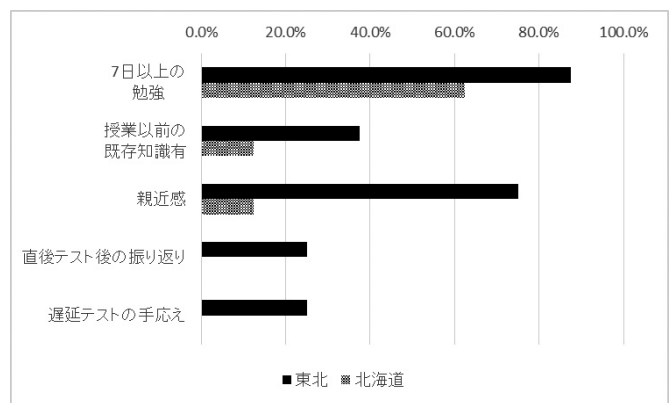


図5 地方別 質問紙による調査結果

表5 地方別 質問紙による調査結果

	7日以上の勉強	授業以前の既存知識有	親近感	直後テスト後の振り返り	遅延テストの手応え
東北地方	7 (87.5%)	3 (37.5%)	6 (75%)	2 (25%)	2 (25%)
北海道地方	5 (62.5%)	1 (12.5%)	1 (12.5%)	0 (0%)	0 (0%)

*対象：両地方同じ学生とし、全体で8名が対象

後テストと遅延テストの実施方法はまったく同様であるが、遅延テストの下降具合はこのようにはっきりとした相違を示す結果となった(図4)。

さらには、質問紙調査結果からも東北地方の「低下大グループ」と「低下小グループ」以上に、北海道地方と東北地方では相違点が明らかとなった(表5、図5)。一番大きな差は親近感である。8名の学生中、東北地方を身近に感じたとして記載した学生は6名だったのに対し、北海道地方を身近に感じたとして記載した学生は1名に留まった。また、

北海道地方の授業前の既存知識の有無についても、1名しかあると回答しなかったことも大きな差である。直後テスト後の振り返りや遅延テストの手応えに関しては、北海道地方は0名という結果となった。

【考察】

この調査Ⅱでは学習法の違いによって、直後テストと遅延テストに差が生まれるのかを検討した。東北地方も北海道地方も同様の教授方法で実施したが、この2つのテストの点数推移が大きく異なる

る結果となった。このことは、東北地方については授業を実施する以前から、学習材料をつなぎ止めることができる関連知識を学生が持っていたのではないかと考えられる。一方、北海道地方に関しては、学習材料をつなぎ止める知識が全くまたはほとんど無い状態ではなかったのではないだろうかと推論される。すなわち、先述したBransfordら（1984）による精緻化（elaboration）がなされているかどうかの違いが結果として顕著に現れたと言えるだろう。精緻化という有意味学習と、既存知識が無いことによる機械的暗記学習の差が明らかに示された。

さらには、質問紙調査の結果からも、東北地方は北海道地方に比べ、7日以上勉強している学生や直後テスト後の振り返りを行っている学生の人数が多い点からも、東北地方の点数推移の下降が緩やかであることは当然と考えることができるであろう。

2. 総合的考察

調査Ⅰでは、観光ビジネス学科30名の学生を対象とし、前期の「観光地理」の授業で実施した東北地方についての単元終了直後に実施した直後テストと、5ヶ月間時間をあけ、告知せずに実施した遅延テストとの間の点数推移について調査を行った。その結果、「低下大グループ」と「低下小グループ」では大きな差異が見受けられた。

この差異の原因を探るために質問紙調査を実施した。その結果は、「低下大グループ」に比べ、「低下小グループ」が、直後テスト前の準備も長く、後の振り返りが多いというものであった。このことは、「低下大グループ」が機械的暗記学習を行った可能性が高く、「低下小グループ」が有意味学習を行った可能性が高いことを示唆するものである。

調査Ⅱでは、調査Ⅰと同様の直後テスト、遅延テストを、北海道地方を対象に実施し、それを東北地方に関するものと比較し、学習対象地域の違いによって点数の推移がどのような傾向を示すかについて調査を行った。調査対象は調査Ⅰの30名

中の8名であった。

その結果、地域による差異は調査Ⅰ以上の大きなものであった。北海道地方に関する大きな低下と東北地方に関する小さな低下は、有意味学習の大きな要因である既存知識の多寡によるものと推察できる。Ausubelら（1969）は有意味学習になる条件の1つとして、学習材料をつなぎ止めることのできる関連知識を学習者が持っていなければならないとしている¹⁾。東北地方について考えると、生まれ育った地域である学生が多く占めていることから、家族で幼少期から旅行に出かけていた等、授業で触れる以前から関連知識を有していたことが推察される。また、今までの学生自身の経験と学習内容の間に、それなりの必然性を見出すことができ、精緻化もされていることが考えられる。

しかし、北海道地方となると訪れた経験すらない学生が多く、授業時に教授された知識は、既存知識が全くない状態に突如として詰め込まれた知識となる。まさしく学習材料が構造の無い無意味なバラバラのものである。

東北地方の遅延テストによる落ち方は小さく、北海道地方においては、遅延テストの点数は大幅に下降している。つまり、東北地方ではある程度の有意味学習が行われたと考えられ、北海道地方に関しては機械的暗記学習が行われたと考えられる。調査Ⅰ、Ⅱから有意味学習と機械的暗記学習の差が大きいことが示された。

3. 今後の課題

本研究では、観光ビジネス学科初年度の学生を対象に、短期大学生における学習法の考察を行った。今後の課題として以下の3点が挙げられる。

第1に、今回の学習法として有意味学習と機械的暗記学習に注目し考察したが、根本的な問題として、本学科に入学してくる学生の多くが、受験勉強等で多くの時間を学習に割く経験したことがないという現状がある。本学科にも推薦入試や、AO入試など筆記試験を伴わない入試制度があり、それらの入試制度での受け入れを多く実施してい

る。そもそも勉強と真摯に向き合う機会をあまり持つことなく、本学科に入学してきたのである。平成28年度の本学科入学生の内訳を見ると、推薦入試やAO入試の受験生は31名中23名と74.2%となり、7割以上の入学生が筆記試験を伴わない入試制度で入学してきている現状がある。その中で、有意味学習、機械的学習と区別して考えようとしても、数多くの語句や数字を暗記するという経験すらない学生も見受けられ限界を感じた。しかし、学生たちの中には趣味などは多彩に持ち、その中で知的好奇心からさらに物事を深く追求するなど、精緻化や有意味学習に取り組む姿勢がある者も見出すことができた。今後は学生の現状を把握すると共に、趣味等で行っていた精緻化を、学習の場面で応用することができないかの検討も行う必要がある。

第2に、今回実施した質問紙調査と点数推移の関係性の信憑性である。東北地方と北海道地方を比較した際に、明らかに親近感においては、差が示されたが、それが既存知識の差であるとは言い難い。質問紙による本人による評定なので実際の学習がどの程度行われたかの問題が残ると考えられる。本研究では、人数を絞り限られた時間のインタビュー調査となったが、さらにインタビュー調査を重ね、点数推移との因果関係を検討する必要がある。

第3に、学生たちの現状を知った上での授業内容の再構築の必要性である。有意味学習と機械的暗記学習との差が本調査から明らかとなった為、ここからがスタートである。今まで当たり前のように機械的暗記学習を行い、この学習法に対して疑問すら持たない学生も多く存在することが明らかとなった。しかし、それではその場をしのぐことしか出来ず、記憶を残存させることが難しい。今後も授業を展開していく立場としては、目の前にある試験の点数を伸ばすことだけではなく、得た知識を自分のものとし、それをもとに物事に興味を持ち知識を広げていける有意味学習を教授することが、喫緊の課題である。

おわりに

前章で示したような限界や課題はあるものの、有意味学習と機械的暗記学習について調査し、具体的に検討できた点においては意義があると考えられる。今後、実践およびインタビュー調査を継続的に行うことにより、学習法だけではなく、学習観や学習方略の面からも研究を展開していきたい。

資料

資料 1 東北地方テスト問題

観光地理確認テスト(東北地方編)

青森県

①コニー字型の秀麗な火山 () は、津軽富士と呼ばれている。

- a) 八甲田山 b) 岩木山 c) 恐山 d) 霧峰山

②世界遺産(自然遺産)として登録されているものは () である。

- a) サロベツ原生林 b) 白神山地 c) 銅路塩原 d) 西妻島

③八甲田山の山腹に開けた () は「千人風呂」、「まんじゅうふかし」で有名である。

- a) 浅虫温泉 b) 酸ヶ湯温泉 c) 大崎温泉 d) 高温泉

④秋田県七の県境に位置する () は、二重式カルデラ湖で、水深は我が国第 3 位である。ヒメマスの養殖が盛ん。

- a) 十和田湖 b) 田沢湖 c) 支笏湖 d) 猪苗代湖

岩手県

⑤水深 120m の地底池が特に有名な鍾乳洞は () であり、日本三大鍾乳洞のひとつである。

- a) 龍洞洞 b) 巻糸洞 c) 秋芳洞 d) 白馬洞

⑥盛岡の奥座敷と呼ばれるのは () である。

- a) 花巻温泉 b) 紫温泉 c) 秋保温泉 d) 霧宿温泉

⑦岩手県の () は、馬の無病息災を祈願する祭りであり、金銀の飾りをつけた馬とともに、着神社から盛岡市までの 15km をパレードする。

- a) 相馬野馬追祭り b) かまくら祭り c) なまはげ d) チャグチャグ馬追祭り

宮城県

⑧“山台の奥座敷”と呼ばれている () には岩盤をくりぬいた露天風呂があることで有名である。

- a) 作並温泉 b) 鳴子温泉 c) 鬼怒川温泉 d) 鹿牧湯温泉

⑨ () は、旧南三陸金華山国定公園に属している。海岸は典型的なリアス式海岸である。

- a) 下北半島 b) 牡鹿半島 c) 男鹿半島 d) 知多半島

⑩宮城・山形阿県にまたがる () は、古来女人禁制の信仰の山で、樹氷が楽しめる。

- a) 栗駒山 b) 羽黒山 c) 金華山 d) 蔵王山

⑪伊達政宗が築城した仙居城は、別名 () とも呼ばれる。

観光地理確認テスト(東北地方編)

秋田県

- a) 白鷹城 b) 青葉城 c) 雄倉城 d) 駒山城

⑫古くからの武家温泉地もあり、「陸奥の小京都」と言われる () は、したれ城でも有名である。

- a) 松前 b) 津山 c) 角館 d) 松島

⑬石焼き料理、なまはげといえは、 () 半島の名物である。

- a) 下北 b) 鹿角 c) 牡鹿 d) 男鹿

⑭角館の北にある円形をしたカルデラ湖 () は、日本最深の湖として有名で、透明度は藤岡湖に敵とわわっている。

- a) 十和田湖 b) 田沢湖 c) 宍道湖 d) 余呉湖

山形県

⑮山形県にある、船頭さんが歌う舟歌を聞きながら約 1 時間の船旅ができるのは () 下りである。

- a) 日本ライン b) 保津川 c) 柳川 d) 最上川

⑯出羽三山に含まれないものは () である。

- a) 月山 b) 湯殿山 c) 羽黒山 d) 蔵王山

⑰ () は宮城県と山形県の県境にまたがる火山群の総称で、複数のスキー場があり、冬には関東からのスキー客で賑わう。また、樹氷が楽しめることで世界的に有名である。

- a) 蔵王山 b) 金華山 c) 栗駒山 d) 早池峰山

福島県

⑱奥州菅原の黒山氏が応永年間(14 世紀初め)に築城した馬蹄形の城で、霞ヶ関・霞ヶ塚・白旗城などの別名をもつ城は () である。

- a) 会津若松城 b) 二本松城 c) 多賀城 d) 白河城

⑲奥州三名湯の一つ () は、かつて鱒湖の湯と呼ばれ、日本武尊が湯あみしたともいう。

- a) 東山温泉 b) 土湯温泉 c) 飯坂温泉 d) 岳温泉

⑳会津若松の北方にある伝統産業の盛んな町 () は、蔵造りの建物の多い町で、“東北の倉敷”と呼ばれている。近年はご当地ラーメンでも有名である。

- a) 白石 b) 白河 c) 喜多方 d) 佐野

配点 ①～⑳ 各 5 点

資料2 北海道地方テスト問題

観光地理確認テスト(北海道地方編)

- ①渡島富士とも言われる () は「馬が天に駆け上る」とも言われている
 a) 高尾山 b) 駒ヶ岳 c) 羊蹄山 d) 樺ヶ岳
- ②“蝦夷富士”と呼ばれているのは () である。
 a) 大雪山 b) 雄阿寒岳 c) 有珠山 d) 羊蹄山
- ③“日本最後の秘境”と呼ばれるオホーツク海に突き出した () は、人跡未踏の原生林や豪快な滝など、荒々しい自然景観が魅力である。
 a) 根室半島 b) 下北半島 c) 丹後半島 d) 知床半島
- ④札幌の奥座敷として知られる () は、美肌効果もあり女性客に人気である。
 a) 登別温泉 b) 十勝川温泉 c) 定山渓温泉 d) 温泉湯温泉
- ⑤1850年に築城された () は、わが国最後でかつ最北端の城郭である。
 a) 松前城 b) 弘前城 c) 丸岡城 d) 宇和島城
- ⑥知床富士とも呼ばれる () は知床半島を代表する火山である。
 a) 天都山 b) 磐梯山 c) 羅臼岳 d) 岩手山
- ⑦日本最大の湿原で知られる () は水鳥の生息地として国際的に重要な湿地とされており、ラムサール条約にも登録されている。
 a) 霧多布湿原 b) 雨竜沼湿原 c) サロベツ原生花園 d) 釧路湿原
- ⑧北海道の屋根と言われる () の最高峰は旭岳である。
 a) 大雪山 b) 男体山 c) 六甲山 d) 石鏡山
- ⑨夜景の美しさに定評がある () は神戸、長崎とともに日本三大夜景に指定されている。
 a) 有珠山 b) 函館山 c) 昭和祈山 d) 比叡山
- ⑩9月中旬に染まる () の真紅のサンゴ草は見事である。
 a) 摩周湖 b) 阿寒湖 c) 屈斜路湖 d) 能取湖

観光地理確認テスト(北海道地方編)

- ⑪透明度は世界有数で、「霧の () 」と言われている。
 a) 摩周湖 b) 阿寒湖 c) 屈斜路湖 d) 能取湖
- ⑫マリモが樺む湖として知られている湖は () である。
 a) 摩周湖 b) 阿寒湖 c) 屈斜路湖 d) 能取湖
- ⑬ジンギスカン料理が名物である、() はクラーク博士の銅像なども立っている。
 a) 平和記念公園 b) さっぽろ羊ヶ丘展望台 c) 札幌大倉山展望台
 d) アドベンチャーワールド
- ⑭ラベンダーと言えは () というくらい有名な。ドラマ「北の国から」のロケ地である釧路の森も観光名所。
 a) 富良野 b) 美瑛 c) 萩 d) 千曲
- ⑮朝の連続小説ドラマでも有名となった蒸留所は () にある。
 a) 釧路 b) 小樽 c) 札幌 d) 余市
- ⑯我が国初の洋式城郭 () は1864年に完成し、星の形をしている。
 a) 松前城 b) 鶴ヶ城 c) 尾山城 d) 五稜郭
- ⑰ () は湖畔に復元されアイヌ民族のモデル集落である。
 a) 登別伊達時代村 b) 白老ポロトコタン c) ファーム富田
 d) 丹頂鶴自然公園
- ⑱ () は大きく街の中心部に運河が通っており、観光の拠点となっている。
 a) 小樽 b) 札幌 c) 函館 d) 夕張
- ⑲300年以上歴史がある () は、函館の奥座敷とも言われ、トラピストス修道院や五稜郭からも近い。
 a) 秋保温泉 b) 層雲峡温泉 c) 登別温泉 d) 湯の川温泉
- ⑳札幌の奥座敷と言われている () は、札幌の観光客の拠点として利用されることが多い。
 a) 洞爺湖温泉 b) 温泉温泉 c) 定山渓温泉 d) 浅虫温泉

観光地理確認テスト(北海道地方編)

- ①1926年に石油試掘中に湧き出した()は、そこから「油風呂」とも言われている。
 a) 川湯温泉 b) 豊富温泉 c) 十勝川温泉 d) 秋保温泉
- ②小樽市の西から日本海に突き出た半島である()は、ゾーラン植栽祥の地である。
 a) 根室半島 b) 津軽半島 c) 積丹半島 d) 野付半島
- ③この中で世界遺産に登録されている場所はどこか。()
 a) 知床半島 b) 焼尻島 c) 大沼・小沼 d) 天売島
- ④本土最北に位置する(4)は、岬には「日本最北端の地」碑が建ち、晴れた日にはサハリン(樺太)が見える。
 a) 雷津岬 b) 宗谷岬 c) 野寒布岬 d) 能取岬
- ⑤()は最大深度360mと日本で2番目に深く、水質日本一の実績がある。
 a) 十和田湖 b) 支笏湖 c) 洞爺湖 d) 宮島沼
- ⑥大雪山北麓、石狩川上流部の24kmに渡る大渓谷である()は、大函小函などの景勝地に恵まれている。
 a) 庄川峡 b) 層雲峡 c) 鳴子峡 d) 天人峡
- ⑦たくさんの方が集まるさっぽろ雪まつりは()月に開催される。
 a) 12 b) 1 c) 2 d) 3
- ⑧北海道の料理をこの中から1つ選びなさい。()
 a) 野沢菜 b) ジンギスカン c) わんこそば d) きしめん
- ⑨北海道の工芸品をこの中から1つ選びなさい。()
 a) 釧路細 b) 秀衡塗 c) 伊予紬 d) 優佳良織
- ⑩新千歳空港の空港コードは()である。
 a) WKJ b) CTS c) MMB d) HKD
- ⑪北海道の都市を5つ挙げなさい(1都市につき2点)

配点 ①~⑩ 各3点 ⑪のみ 1都市2点 (合計10点)

資料3 東北地方 質問紙

観光地理 東北地方のテストに関する質問

氏名

- 7月に実施した東北地方の試験の勉強時間を教えてください。
- 授業を受講する前から、東北の知識はある程度あったと思いますか?あると思った場合には理由も教えてください。
- 東北地方は身近に感じていましたか?身近に感じていた場合には理由も教えてください。
- 前期の授業が終了し、12月に遅延テストを実施するまでの間で、授業で触れた東北地方を振り返る機会がありましたか?振り返る機会があればその機会も具体的に教えてください。
- 東北地方の遅延テストを実施した際に手ごたえはありましたか?理由も教えてください。

資料4 北海道地方 質問紙

観光地理 北海道地方のテストに関する質問

氏名

1. 7月に実施した北海道地方の試験の勉強時間を教えてください。
2. 授業を受講する前から、北海道の知識はある程度あったと思いますか？あると思った場合には理由も教えてください。
3. 北海道地方は身近に感じていましたか？身近に感じていた場合は理由も教えてください。
4. 前期の授業が終了し、12月に遅延テストを実施するまでの間で、授業で触れた北海道地方を振り返る機会がありましたか？振り返る機会があればその機会も具体的に教えてください。
5. 北海道地方の遅延テストを実施した際に手ごたえはありましたか？理由も教えてください。

文 献

【引用文献】

- 1) Ausubel, D.P. and Robinson, G.R. 1969 School learning. Holt, Rinehart and Winston. 吉田章宏・松田弥生（訳）『教室学習の心理学』黎明書房 1984
- 2) パヴロフ, I.P. 1975 川村浩（訳）『大脳半球の働きについて—条件反射学—』岩波書店
- 3) Bransford, J.D. and Stein, B.S. 1984 The ideal problem solver. W.H. Freeman and Company. 古田勝久・古田久美子（訳）『頭の使い方がわかる本』H B J 出版局 1990
- 4) 西林克彦 1994 『間違いだらけの学習論』新曜社
- 5) 西林克彦 2009 『あなたの勉強法はどこがいけないのか？』ちくまプリマー新書
- 6) 前掲5) 参照

【参考文献】

- 藤澤伸介 2002 『ごまかし勉強上 学力低下を助長するシステム』新曜社
- 藤澤伸介 2002 『ごまかし勉強下 ほんものの学力を求めて』新曜社
- 市川伸一 2004 『学ぶ意欲とスキルを育てるいま求められる学力向上策』小学館
- 豊田弘司 1989 偶発学習に及ぼす自伝的精緻化の効果 教育心理学研究, 37 (3), 234-242